

高崎市文化財調査報告書第345集

上中居前屋敷遺跡 2

－高前幹線事業に伴う発掘調査－

2015

高崎市教育委員会

序

高崎市は、北西に榛名山、北東に赤城山、西に妙義山などの上毛三山を望む群馬県の南西部に位置しております。平成18年から21年にかけて、周辺の6町村と合併を行い、人口37万5千人を擁する都市となりました。こうして誕生した新たな高崎市は、平成23年4月1日より中核市へ移行しました。

本書で報告する上中居前屋敷遺跡は、高前幹線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査であり、平成19年度に調査が開始され、平成26年度で終了となりました。これらの調査の結果、中近世の屋敷跡や寺院を構成していたと考えられる堀、平安時代の水田跡などが発見されました。この水田跡は、1108年に起きた浅間山の噴火による軽石に埋没しているため、水田耕作が行われた時期が正確に推測できる貴重な資料となっております。また、下中居町・下之城町にかけて広い範囲で水田経営が及んでいたことがわかりました。

最後になりましたが、発掘調査報告書の刊行にあたりご協力・ご指導をいただきました関係諸機関ならびに地元関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、発掘調査や整理作業に従事した作業員の方々の労をねぎらい、序といたします。

平成27年3月

高崎市教育委員会
教育長 飯野 眞幸

例言

1. 本書は、高前幹線事業に伴って平成21年度・25年度および平成26年度に実施した発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、高崎市下中居町21-6(1区)・22-4(2区)・21-5(3区)・457-2(4区)、上中居町877-11(5区)である。
3. 発掘調査および整理は、高崎市教育委員会文化財保護課が行った。
4. 本遺跡は、高崎市遺跡番号「447・563・595」に該当する。
5. 調査組織は次のとおりである。

平成21年度：(事務局) 田口一郎 須田奈保子 山田いづみ
(調査担当) 黒田晃 明石雅夫

平成25年度：(事務局) 田口一郎 神澤久幸 山田いづみ
(調査・整理担当) 大野義人 岡崎裕子 手島美実子

平成26年度：(事務局) 田口一郎 針井修 加藤志津代
(調査・整理担当) 大野義人
6. 発掘調査期間は以下のとおりである。

平成21年度(1・2区) 平成22年1月25日～平成22年2月12日
平成25年度(3区) 平成26年2月25日～平成26年3月3日
平成26年度(4・5区) 平成26年4月28日～平成26年5月23日
7. 整理作業期間は、平成26年4月28日～平成27年3月31日である。
8. 本書の執筆・編集は大野が行った。
9. 遺構図面作製は発掘作業員および大野が行い、デジタルトレース作業は大野が行った。遺物整理・実測作業は整理作業員および大野が行い、デジタルトレース作業は株式会社シソ技術コンサルに委託した。
10. 遺構の写真撮影は黒田・大野が行った。遺物の写真撮影は株式会社シソ技術コンサルに委託した。
11. 本事業に際し、発掘調査における表土の掘削・埋填を株式会社井ノ上が行った。
12. 本遺跡の出土遺物・記録類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。

凡例

- ・ 本書に使用した地図は、高崎市都市計画図(1/2500)、および国土交通省国土地理院発行の1/25,000の地形図『高崎』である。
- ・ 本書中に使用した座標値は、平面直角座標第Ⅱ系国家座標(世界測地系)を用いており、方位はその座標北を示す。
- ・ 土層および遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- ・ 本報告書で用いた縮尺は原則として以下のとおりである。例外については各図版のスケールを参照されたい。

調査区全体図：1/100 および1/200、遺構図：1/60、遺物図：1/3
- ・ 遺物観察表に用いた単位はcmであり、()で示した数値は残存部の量度である。
- ・ 本書で使用した火山灰の略称については、以下のとおりである。

A s - A：浅間A軽石(1783年(天明3年)の浅間山噴火に由来)
A s - B：浅間B軽石(1108年(天仁元年)の浅間山噴火に由来)
- ・ 断面図におけるA s - Bの一次堆積層には、トーン処理を施した。

目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 発掘調査の方法・経過…………… 1

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地・地理的環境…………… 1

第2節 周辺の遺跡・歴史的環境…………… 2

第3節 周辺遺跡の過年度調査成果…………… 4

第3章 発掘調査の方法

第1節 調査区の設定…………… 11

第2節 調査方法・記録方法…………… 11

第4章 発掘調査の記録

第1節 遺跡の概要…………… 11

第2節 基本層序…………… 11

第3節 発掘調査成果…………… 13

第5章 まとめ

第1節 遺跡の全容…………… 24

第2節 古墳時代の遺構群…………… 24

第3節 B下水田と条里制地割…………… 24

第4節 中世の寺院関連遺構…………… 28

第5節 中近世の屋敷跡（下中居新井屋敷）…………… 31

第6節 今後の課題…………… 31

写真図版

抄録・奥付

挿図目次

第1図	上中居前屋敷遺跡2周辺遺跡	5
第2図	上中居前屋敷遺跡2調査区位置図	10
第3図	基本土層図	12
第4図	1・2・3区全体図	14
第5図	3区平面図	15
第6図	3区断面図・出土遺物	16
第7図	4区平面図	18
第8図	4区1～3号溝、1号土坑平面図・断面図・出土遺物	19
第9図	4区1号井戸、1～8号ビット平面図・断面図・出土遺物	20
第10図	5区平面図・断面図	22
第11図	5区出土遺物	23
第12図	高前幹線関連遺跡全体図	25
第13図	古墳時代の遺構分布状況	27
第14図	B下水田および条里朝地割	29
第15図	中世寺院関連の遺構	30
第16図	下中居新井屋敷関連の遺構	32

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表①	6
第2表	周辺遺跡一覧表②	7
第3表	周辺遺跡一覧表③	8
第4表	周辺遺跡一覧表④	9
第5表	出土遺物観察表	23

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、都市計画道路3・2・1号高前幹線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査である。平成18年度に高崎市都市整備部都市施設課より埋蔵文化財の照会があり、これに対し文化財保護課は事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する旨を報告した。その後都市施設課と文化財保護課で文化財保護の協議を行ったが、事業計画の変更は困難であるとの回答を得たため、平成19年度から記録保存を目的とした文化財発掘調査を開始した。本事業に関する発掘調査は、住居の移転等の関係もあり調査対象地を細かく分割して調査せざるを得ず、次年度以降も継続して発掘調査が行われ、平成26年度で終了となった。

本報告書で報告するのは平成21・25・26年度の発掘調査成果であり、平成21・25年度については既に報告書刊行済みの『下中居天神裏遺跡 第1・2次調査（高崎市2012）』および『上中居前屋敷遺跡』（高崎市2014）において未報告であった箇所を掲載している。

第2節 発掘調査の方法・経過

平成21年度の発掘調査は、上中居前屋敷遺跡で報告された2区を主体として調査を行っていたが、緊急的に発掘調査を行う必要が生じた箇所があったため、小規模な発掘調査を行った（1・2区）。

平成25年度の発掘調査は、上中居前屋敷遺跡で報告された4区を主体として調査を行っていたが、緊急的に発掘調査を行う必要が生じた箇所があったため、小規模な発掘調査を行った（3区）。

平成26年度は、これまで家屋の解体や看板の撤去が滞っていたため保留となっていた箇所が調査可能な状態となったため、小規模な発掘調査を行った（4・5区）。

発掘調査は、いずれの調査区も遺構検出面までは重機を使用して掘削を行った。4区においては調査区隣接地に排土置き場が確保できない状況が生じたため、遠方の道路予定地内までの搬出作業を並行して行った。遺構確認および遺構掘削は人力で行い、遺構平面図・断面図や写真撮影などの各種記録作業については担当職員および作業員が行った。調査終了後は重機による埋戻し作業を行った。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地・地理的環境

上中居前屋敷遺跡2は、関東平野の北端部にあたる台地上に立地している。この台地は榛名山の南東側に展開しており、北西から南東にかけて緩やかに傾斜し、榛名山麓部湧水地帯などを水源とする多数の河川が南東方向へ流下している。この河川のうちのひとつである井野川は、谷底平野から成る低地帯を形成しており、これを境に東側を前橋台地、西側を高崎台地と呼称している。榛名山山南麓部には、榛名山の火山活動によって形成された相馬ヶ原扇状地や白川扇状地が広がり、標高120m付近で南方の高崎台地へと接続する。井野川の南方を流れる烏川は浅間隠山などを水源とし、碓氷川・鍋川などと合流しながら埼玉県との県境付近で利根川へと流れ着く。本遺跡は、この井野川と烏川の間に形成されている微高地と低地が入り混じるエリアに立地している。

上中居前屋敷遺跡2は、北西から南東方向へ展開する微高地とその南方の低地にかけて調査対象地が及んでいる。周辺には長野堰からの流れをくむ水路が複数開削されており、このうち矢中堰が調査区の北部において南東方向へ流下している。

第2節 周辺の遺跡・歴史的環境

上中居前屋敷遺跡2周辺では、前橋泥流が厚く堆積しているため旧石器時代の遺構・遺物は確認されておらず、活動の痕跡が認められるのは縄文時代中期頃からである。確認数こそ少ないものの、本遺跡の北東に形成された微高地上および縁辺部に該当時期の遺構・遺物が散見される。微高地上では中居町一丁目遺跡3、縁辺部では下中居条里Ⅲ遺跡において縄文時代中期後半頃の堅穴住居跡が検出されている。上中居遺跡群では縄文中期後半から後期にかけての集石遺構や土坑、被熱痕跡などが検出され、遺構に伴わないものの石櫛や土偶など祭具の出土もみられる。なお、この微高地周辺以外では、さらに北方の井野川右岸にあたる宿大類遺跡群Ⅴ～Ⅷや情報団地遺跡Ⅰ・Ⅱなど、南方の烏川左岸にあたる下佐野Ⅰ地区・寺前地区、下佐野Ⅱ地区、倉賀野万福寺Ⅰ・Ⅱ遺跡などと同じく縄文時代中期後半～後期頃の遺構が確認されている。ちなみに宿大類遺跡群Ⅲ(山鳥・天神遺跡)では縄文時代前期の遺構が確認されており、井野川右岸エリアでは一足早く縄文時代の文化が根付いていた可能性がある。

本遺跡周辺では縄文時代晩期～弥生時代前期の遺跡は未確認であり、弥生時代中期後半頃から活動が再開されたようであるが遺跡数は少ない。微高地には特に希薄で、高岡村前Ⅱ遺跡で中期末～後期初頭にかけての住居が数軒確認されたのみであり、どちらかというと微高地縁辺部に遺構・遺物の存在が認められる。高岡塚村遺跡では中期末頃の溝が確認されており、環濠を有する集落が存在する可能性を示唆している。東町Ⅲ・Ⅳ遺跡では北西—南東方向の溝が数条検出されたほか、A s—C 礫石に埋没した水田跡が確認されている。また、明確な遺構は確認されていないが、高崎競馬場遺跡や城南小学校庭弥生遺跡などで弥生時代中期末～後期初頭の土器が出土しており、低地においても活動の痕跡が認められる。本遺跡北東にあたる井野川流域沿いでは、弥生時代後期を中心とした集落域や墓域が形成されている状況がうかがえる。井野川左岸エリアでは矢島竹之内遺跡、矢島町薬師遺跡、鈴ノ宮遺跡などが、井野川右岸エリアでは宿大類遺跡群Ⅴ～Ⅷ、情報団地Ⅰ・Ⅱ遺跡、南大類東沖・稲荷遺跡などで堅穴住居跡や方形周溝溝などが展開していく。中でも矢島竹之内遺跡は、中期末～後期初頭と近辺では最も古く、赤城山南麓や東北南部・東海系土器の出土が目立つ短期的な集落である。井野川流域に弥生集落が展開する画期となった重要な遺跡であるといえよう。

古墳時代に入ると遺跡数が飛躍的に増加し、各地で古墳が築造されるとともに微高地にも集落が展開するようになる。まず古墳の築造状況を通時的に概観する。4世紀前半頃、第1図の範囲外にはなるが、井野川左岸に全長95mの前方後円墳である元島名将軍塚古墳が築造され、当地域に古墳文化が開花する。やや時期が下って4世紀後半になると、本遺跡の東方に直径約10mの円墳である柴崎蟹沢古墳が築造される。小規模な円墳ではあるが、副葬品として三角縁神獸鏡2面、内行花文鏡2面の合計4面の青銅鏡を所有している。この三角縁神獸鏡のうち1面の銘文には「□始元年」と記されており、同型鏡の情報を基に「正始元年」と補読されている。同型鏡は兵庫県森田古墳、山口県竹島御家老屋敷古墳、近年の整理作業により奈良県桜井茶白山古墳からの出土が確認されている。高崎市内における三角縁神獸鏡の出土はこの2面のみであり、墳丘規模こそ小さいが、本墳には複数の鏡を所有できるほどの有力者が埋葬されたと考えられる。

5世紀頃になると、粕沢川沿いの左岸にあたる微高地に全長1715mの大型前方後円墳である浅間山古墳が築造され、その規模から当地域の最有力者が埋葬されていると考えられる。浅間山古墳の近辺には、同じく前方後円墳である大鶴巻古墳・小鶴巻古墳が築造されている。浅間山古墳と大鶴巻古墳は築造時期が近いと考えられており、小鶴巻古墳は両古墳の築造からやや期間を置いた5世紀後半の築造とされている。これらの前方後円墳周辺では、対岸である粕沢川右岸エリアに庚申塚古墳・大山古墳・茶白山古墳などの大型円墳が、倉賀野万福寺遺跡において5世紀後半を中心とした古墳群が確認されており、浅間山古墳・大鶴巻古墳・小鶴巻古墳は、これらの倉賀野古墳群を統べる首長墓であったと推定される。

これとはほぼ同時期に、烏川左岸段丘上に佐野古墳群が形成される。その始まりは長者屋敷天王山古墳が

築造された4世紀末頃からであり、その後7世紀初頭頃まで継続する。下佐野遺跡Ⅰ地区・寺前地区や下佐野遺跡Ⅱ地区の調査では、集落跡とともにそれまで知られていなかった古墳や古墳時代前期に属する周溝墓なども確認されている。古墳群形成の最終期にあたる6世紀後半～7世紀初頭を代表する古墳として、全長60mを超える前方後円墳である漆山古墳や直径44mの大型円墳である蔵王塚古墳が挙げられる。特に漆山古墳は当地域における最終期の前方後円墳であり、時期的・地理的にも山ノ上碑や金井沢碑に刻まれた「佐野三家」との関連性も考慮すべき重要な古墳である。その後は明確な有力古墳は築造されないが、倉賀野古墳群の東方に安楽寺古墳や一本杉古墳などの7世紀中葉～末にかけて築造された古墳が存在する。特に安楽寺古墳は巨大な載石を用いて石室を構築しており、さらに玄室構造が石棺状を呈するなどの特殊な属性を有しており、後の郡司階層に匹敵するほどの人物が埋葬されていると考えられている。

本遺跡周辺には古墳の分布は少ないが、西方の低地域にかつて100mを超える規模の前方後円墳である越後塚古墳が存在した。現在は削平されてしまい詳細な情報はないが、南北主軸であることから堅穴系の主体部を有していたと考えられ、5世紀頃の築造であると推定されている。

次に微高地上を中心として集落の展開を見ていく。遺構の分布が濃密なのは上中居遺跡群、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、中居町一丁目遺跡Ⅰ～Ⅲなどであり、古墳時代前期および中期後半を中心とした集落が営まれる。上中居辻薬師Ⅱ遺跡・上中居遺跡群・中居町一丁目遺跡では、古墳時代前期に所属する方形周溝墓などもみられる。集落の展開をみると、上中居遺跡群の中央部付近にある遺構の空白地帯を境として東西に集落域が想定され、おおむね東側に古墳時代前期、西側に中期後半頃の集落が展開する。この他にも上中居辻薬師遺跡Ⅲや高岡・塚村遺跡Ⅱにおいても前期・中期後半の堅穴住居跡が確認されている。また該当エリアでは北西—南東方向の溝が多数確認されている。これらの溝は古墳時代前期—中期のものが多いとされており、一部弥生時代の土器片を含む大型の幹線水路と想定される溝も存在する（上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居辻薬師遺跡Ⅶ次、上中居遺跡群）。今回報告する上中居前屋敷遺跡Ⅱで検出した古墳時代前期の溝も、これらの一環であると考えられる。なお、これらのうち上中居辻薬師遺跡Ⅴ次で検出された古墳時代中期頃の溝から、浮形式鉄帯鏡と思われる鏡鍔が勾玉・管玉とともに出土している。集落域からは隠れたエリアからの出土であり、祭祀行為が行われていた可能性もある。

後期になると遺構数が極端に減少する。ただし遺構分布域は中期後半の集落域と重複しており、高岡村前Ⅱ・高岡東沖・村前遺跡においては新たに集落が営まれることが確認されているため、活動領域が縮小されたということではないようである。古墳時代も終末期になると遺構の分布は限定的になり、上中居辻薬師遺跡Ⅲや中居町一丁目遺跡Ⅱで堅穴住居跡が数基確認されている。また、上中居岡西遺跡Ⅱ、上中居宇名室遺跡においては当該時期の溝が開削されており、特に前者は幅6mを超える大型のもので、須恵器・土師器や石製模造品が出土している。両者に共通する特徴は、軸方向が東西南北を指向していることであり、それ以前までの地形に則した北西—南東方向の溝群とは明らかに異なる。このことは、古墳時代終末期に土地利用に対する意識に変化が現れたことを示しており、同時に地形に左右されない開発技術を有するようになったことも推察される。

平安時代に該当する遺跡も多数見受けられるが、分布域が若干異なる箇所も確認される。微高地上では古墳時代に集落の中心域であった上中居エリアからやや南東に下った柴崎エリアに中心域が移転しているようであり、柴崎遺跡群・南大類遺跡群、柴崎遺跡群（Ⅴ）、西浦・吹手西遺跡などで奈良時代から平安時代にかけての集落跡が確認されている。この微高地の北東および南西側の低地では水田の大規模な開発が行われており、B下水田が広く確認されている。本遺跡の南東にあたる下之城糸里遺跡Ⅰ・Ⅲでは、糸里制地割に基づいた水田経営が行われたことが明らかになっており、1町（約109m）の間隔で水路を伴う大畦畔が構築されている。これと同様の状況が、南方の下之城村前遺跡Ⅱ～Ⅴ・Ⅶ、下之城仲沖遺跡Ⅲ・Ⅳなどや、東方の矢中遺跡群Ⅱ～Ⅹなどでも確認されている。また、下之城村前遺跡Ⅶや下之城仲沖遺跡Ⅲなどでは、糸里制地割に該当するB下水田の大畦畔より下層において、ほぼ同位置・同方向の溝が走行

している様子が確認されており、B下水田経営以前から条里制地割りが導入されていた可能性を示唆している。また、矢中遺跡群（Ⅶ）の調査では、溝の底面から物部私印が出土しており注目される。

中世以降になると、矢中堰に沿うように多数の城館・居館が築造される。矢中堰の南側に反町城、新堀の砦、新井屋敷、高尾屋敷、佐藤屋敷、福田屋敷などが、さらに南西には和田下之城が築城されており、いずれも15～16世紀頃に築造されたと考えられている。これらのうち反町城・新井屋敷については、それぞれ上中居辻薬師遺跡Ⅰ・Ⅱ、下中居天神裏遺跡1・2次の発掘調査において、堀を中心とした居館関連の遺構群が確認されている。本報告にも関連する新井屋敷は、高崎城の前身となる和田城に拠点を置いていた和田氏の傘下であった新井大学の居館と推定されている。新井屋敷の南東隣に築造された高尾屋敷は、新井大学とともに和田氏騎馬衆の一人である高尾佐渡守の居館とされ、当時の矢中堰周辺は和田氏配下の武士団が居を構えたエリアであったことがわかる。また、上中居前屋敷遺跡の発掘調査では、新井屋敷の北方にあたる箇所では15～16世紀を中心とした溝群などが確認された。これらの溝や井戸からは該当時期の瓦が多数出土しており、当時この場所に寺院が存在していたことが想定される。新井屋敷や反町城などの堀からは近世以降の遺物が出土することも多く、近現代までその痕跡を残していたと考えられる。これに対して上中居前屋敷遺跡の寺院跡は、出土遺物の状況から中世段階で埋没してしまったと考えられる。本遺跡周辺は、今後の調査によって新たな寺院・居館跡が発見される可能性が高い地域であるといえる。

第3節 周辺遺跡の過年度調査成果

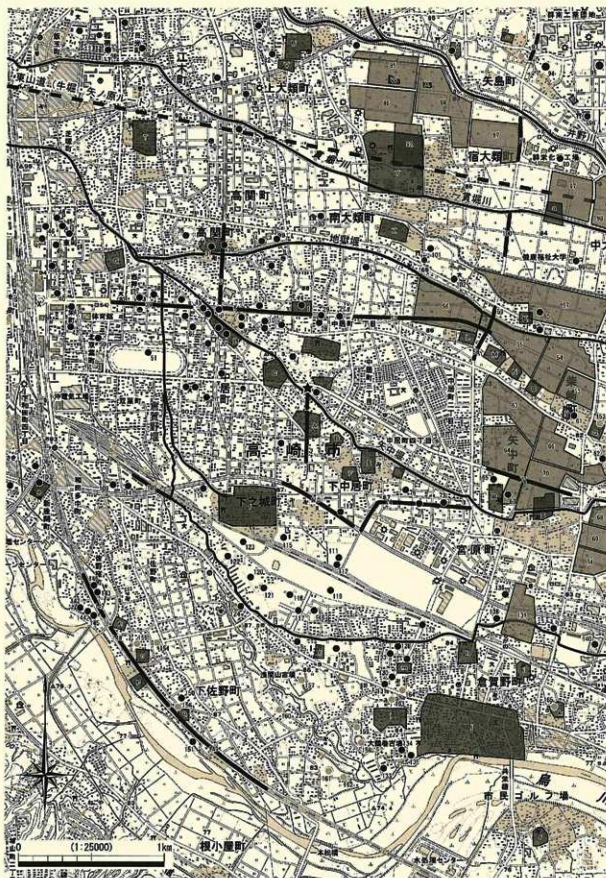
過年度の調査成果については、『下中居天神裏遺跡 第1・2次調査』・『上中居前屋敷遺跡』において報告済みであり、遺跡分布状況については概ね明らかとなっている。遺構の特徴から大きく4つのエリアに区切って概観していきたい。

まず調査区北部に開削されている矢中堰の北側では、古墳時代前期頃の溝が複数開削されている。これらの遺構は北西から南東にのびる微高地上に立地しており、南東方向へと流下するものが多い（上中居前屋敷遺跡 1-1区・1-2区）。本報告の5区がこのエリアに該当する。

矢中堰の南西側（上中居前屋敷遺跡 2-1区・4区）には、中世（15～16世紀頃）の溝が集中しており、これらの溝や井戸の覆土中から当該時期の瓦が多数出土している。走行方向は北西-南東方向が多く、これらに直交する溝も認められる。また、礎石を有する柱穴も確認されており、以上のような特徴から中世の寺院跡であった可能性が考えられる。

さらに南方の微高地縁辺部付近にあたる調査区では、前節で触れた矢中堰に沿うように築造された館址のうち、新井屋敷を構成する遺構群が検出されている。特に下中居天神裏遺跡1次5区、2次1・3・6・7区では堀跡が検出されており、内郭にあたる同2次2・5区では井戸やピットが多数検出されている。本報告の4区がこのエリアに該当する。

新井屋敷の南方は低地域となっており、As-B経石一次堆積層に埋没した平安時代の水田跡（B下水田）が広く展開している。下中居天神裏遺跡2次8区では、このB下水田の北縁部にあたる大型の畦畔が確認されている。また、同1次2S区では水路を伴う東西方向の大畦畔が検出されており、条里制地割りに基づいて構築されていると考えられる。本報告の1～3区がこのエリアに該当する。



第1図 上中居前屋敷遺跡2周辺遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表①

No	遺跡名	主な遺構	文献	No	遺跡名	主な遺構	文献
★	上中居前庭敷道跡2 (本道跡)	古墳：溝 平安：B水田 中近世：溝・井戸	市教委345集	25	上中居天神道跡第3次	平安：B水田 中世：溝 近世：溝	市教委305集
1	上中居前庭敷道跡	古墳：溝・井戸 中世：溝・掘立・掘石・井戸 中近世：土城基	市教委327集	26	上中居馬場道跡	平安：B水田 平安以降：土坑	調査会68集
2	下中居天押差道跡 第1・2次調査	平安：B水田・溝 中近世：井戸・溝	市教委296集	27	中居町一丁目道跡	古墳：住居・溝溝基 平安：住居・墓坑	群書類398集
3	上中居森貝戸道跡	縄文：住居 古墳：住居 奈良平安：竈	市教委149集	28	中居町一丁目道跡2	古墳：住居・堀穴状・溝 平安：溝	市教委255集
4	上中居宇名道跡	古墳：溝 奈良：土坑	市教委254集	29	中居町一丁目道跡3	縄文：住居 古墳：溝 古墳～平安：溝 平安：B水田	群書類509集
5	上中居道跡群	縄文：白石・溝 古墳：住居・掘溝基・溝 奈良平安：井戸・水田 中近世：堀・溝・井戸	市教委232集	30	高岡塚村道跡	弥生：溝 中近世：掘立・溝	市教委116集
6	上中居辻部道跡	中近世：堀・道路状遺構・井戸・土坑基	市教委101集	31	高岡・雁村道跡2	古墳：住居・溝 奈良平安：住居 中近世：掘立・溝	市教委287集
7	上中居辻部Ⅱ道跡	古墳：住居・方形掘溝基・溝 中近世：堀・掘立・井戸	市教委122集	32	高岡村南Ⅱ道跡 高岡東津・村南道跡	弥生：住居 古墳：住居・掘溝・掘溝 奈良平安：B水田・住居・溝 中近世：掘立・井戸・竈	市教委135集
8	上中居辻部道跡 (4次)	古墳：住居・土坑 平安：住居	市教委258集	33	高岡東沖Ⅱ道跡	平安：B水田	調査会52集
9	上中居辻部道跡 (5次)	古墳：溝 平安：溝 近現代：溝・井戸・A堀溝	市教委258集	34	高岡東沖道跡	平安：B水田・溝	市教委220集
10	上中居辻部道跡 (6次)	古墳：住居・堀穴状・溝	市教委249集	35	高岡高根道跡	古墳～平安：住居・堀穴状・井戸 平安：住居・B水田 中近世：溝・井戸	市教委244集
11	上中居辻部道跡 (7次)	古墳：住居・溝 近現代：溝	市教委258集	36	岡久保道跡	平安：B水田	市教委88集
12	上中居岡西道跡 (2次)	古墳：溝・井戸 平安：溝 近世：A堀溝	市教委258集	37	岩押町Ⅰ道跡	平安：B水田 中近世：溝	調査会25集
13	上中居岡西道跡3	古墳：溝 中近世：溝	市教委332集	38	岩押町Ⅱ道跡	平安：B水田	調査会56集
14	上中居岡東道跡 (2次)	古墳：土坑 中近世：溝	市教委258集	39	岩押Ⅲ道跡	平安：B水田・溝 中近世：竈・奥寄掘田	群書類330集
15	上中居平塚道跡	平安～近世：井戸・溝	市教委119集	40	采町Ⅰ道跡	平安：B水田 近世：溝	調査会43集
16	上中居平塚Ⅰ道跡	平安：B水田	調査会47集	41	采町Ⅱ道跡	平安：B水田・溝 中近世：溝・奥寄掘田	采町道跡調査会
17	上中居平塚Ⅱ道跡	平安以降：溝	調査会53集	42	采町Ⅲ道跡	平安：B水田 近世：A穴溝	市教委187集
18	上中居平塚道跡3	平安：B水田 中世：ピット	市教委285集	43	東町道跡	平安：B水田	市教委98集
19	上中居西庭敷道跡	平安：B水田・溝	調査会24集	44	東町Ⅱ道跡	平安：B水田	市教委121集
20	上中居西庭敷Ⅱ道跡	中近世：溝・井戸・土坑・ピット	調査会59集	45	東町Ⅲ道跡	弥生～古墳：C水田 平安：B水田	市教委130集
21	上中居西庭敷Ⅲ道跡	平安：B水田 平安以降：溝	調査会70集	46	東町Ⅳ道跡	弥生：水路 古墳～平安：水田 平安：B水田	市教委138集
22	上中居・西庭敷道跡4	古墳：土坑 奈良平安：溝 中近世：溝・井戸	市教委300集	47	東町Ⅴ道跡	平安：B水田 近世：水田・A穴溝溝 近代：製糸工場跡	市教委146集
23	上中居北神Ⅰ道跡	平安：B水田 中世以降：溝	調査会62集	48	東町Ⅵ道跡	平安：B水田	調査会78集
24	上中居北神Ⅱ道跡	平安：B水田	市教委158集	49	東町道跡7	平安：B水田 中世：溝	市教委301集

第2表 周辺遺跡一覽表②

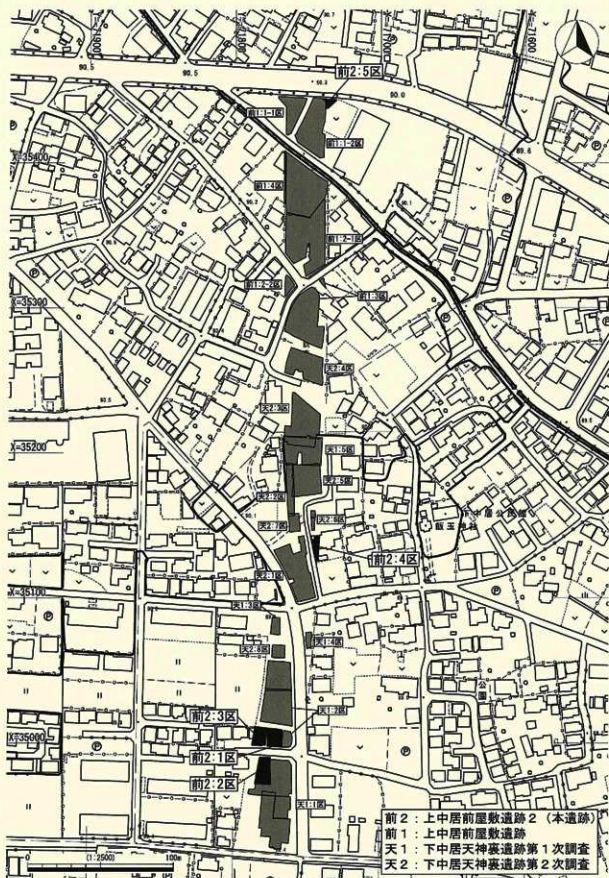
No	遺跡名	主な遺構	文献	No	遺跡名	主な遺構	文献
30	北東宮遺跡	平安：B水田 中近世：堀立	市教委295巻	75	下中層奈良Ⅱ遺跡 (A跡前3)	中世：水田跡 近世：古跡	市教委159巻
51	高崎越馬場遺跡	遺構なし	市史 資料編1 原稿古代1	76	下中層奈良Ⅱ遺跡	縄文：住居、土坑 古墳：住居 奈良：土坑 平安：土坑、溝、 B水田 中世：溝	市教委183巻
52	柴崎遺跡群（Ⅰ） （大田）	古墳：溝 奈良平安：住居、溝、 B水田 中近世：溝	市教委126巻	77	熊玉Ⅰ・Ⅱ遺跡	平安：B水田	市教委161巻
53	柴崎遺跡群（Ⅱ） （村岡）	平安：B水田、水路	市教委49巻	78	熊野町Ⅱ遺跡	古墳：古墳、溝 中世：土坑 近世：水路	市教委142巻
54	柴崎遺跡群（Ⅲ） （富土塚、富土塚東B）	平安：B水田、水路	市教委62巻	79	林製作所遺跡	遺構なし	市史 資料編1 原稿古代1
55	柴崎遺跡群（Ⅳ） （熊野、畑中、吹手西A、 富土塚B）	平安：B水田	市教委70巻	80	上大畑塚Ⅱ遺跡	平安：B水田	調査会64巻
56	柴崎遺跡群（Ⅴ） （西沖、藤原、吹手西B）	平安：B水田、水路	市教委79巻	81	上大畑塚Ⅲ遺跡	古墳：住居 奈良平安：住居	調査会8巻
57	柴崎遺跡群（Ⅵ） （殿谷戸、溝、富土塚、 車入、吹手、埴原）	古墳：住居 奈良平安：住居	市教委92巻	82	上大畑塚宅地遺跡 (1・2次)	弥生～古墳：住居、周溝墓 奈良 平安：溝	市教委37巻
58	西沖・吹手西遺跡 (西沖1、吹手西1)	古墳：周溝墓 平安：住居、溝 中近世：堀	市教委113巻	83	上大畑野地田遺跡	奈良平安：水田 平安：B水田 近世：溝	調査会35巻
59	柴崎遺跡群 (柴崎西遺跡2、車入2、 吹手西2)	古墳：周溝墓	市教委118巻	84	上大畑・押押遺跡2	古墳：田河川 中世：堀、溝	市教委247巻
60	柴崎・車入遺跡3	平安：琴穴遺構 中世：水田、 溝	市教委298巻	85	新大畑遺跡群 (天田、川柳)	奈良平安：住居、竪立、B水田、 火葬墓 中近世：火葬墓、土坑	市教委41巻
61	柴崎村岡遺跡 (2次)	縄文：土坑 古墳：土坑 中世： 溝、井戸 近世：溝、井戸	調査会16巻	86	新大畑遺跡群（2） (天田Ⅱ)	奈良平安：住居 平安：B水田 中世：堀、竪立、井戸、土坑	市教委48巻
62	柴崎屋敷遺跡	古墳～平安：溝 中世：堀	市教委334巻	87	新大畑遺跡群（3） (山島、天神)	縄文：住居、土坑 奈良平安： 堀、溝、土坑墓、井戸 平安： B水田	市教委56巻
63	矢中遺跡群（Ⅰ） (矢中天王宮)	平安：B水田、溝 平安以降： 溝	市教委35巻	88	新大畑遺跡群（Ⅳ） (村北、矢島前、村東)	平安：住居、B水田 中世：堀、 溝、竪立建物、井戸、土坑	市教委61巻
64	矢中遺跡群（Ⅱ） (矢中村北A)	平安：B水田、溝 平安以降： 溝 中近世：溝	市教委40巻	89	新大畑遺跡群（5） (新大畑天神久保)	平安：住居、B水田	市教委64巻
65	矢中遺跡群（Ⅲ） (矢中宝昌寺遺)	平安：住居、B水田 中近世：堀、 井戸	市教委43巻	90	新大畑遺跡群Ⅲ (万相寺)	縄文：住居 弥生：住居 古墳： 古墳 奈良平安：住居、竪立 平安：B水田 中世：竪立	市教委66巻
66	矢中遺跡群（Ⅳ） (柴崎前、矢中村北B 2次)	平安：住居、井戸、集石、土坑、 溝	市教委52巻	91	新大畑遺跡群Ⅳ (矢島町村西、増蔵)	縄文：住居、土坑 古墳：住居、 溝 奈良平安：住居、竪立、中 世：堀、竪立、井戸、溝、土坑	市教委71巻
67	矢中遺跡群（Ⅴ） (矢中村北C)	中世：堀、溝	調査会3巻	92	新大畑遺跡群Ⅴ (新大畑村西)	縄文：住居 弥生：住居 古墳： 古墳、周溝墓 奈良平安：住居、 竪立、井戸 中世：堀、井戸	市教委75巻
68	矢中遺跡群（Ⅵ） (矢中村東)	古墳：周溝墓 平安：B水田	市教委57巻	93	矢島竹之内遺跡	弥生：住居、竪立、周溝墓 古墳：周 溝墓、住居 中世：溝	市教委86巻
69	矢中遺跡群（Ⅶ） (矢中村東B)	古墳：周溝墓 平安：B水田	市教委60巻	94	矢島町原部遺跡	弥生：住居 古墳：古墳、住居、 溝 平安～中世：ビット器	調査会27巻
70	矢中遺跡群（Ⅷ） (柴崎下村北・畷内)	古墳：古墳 平安：B水田 中 近世：堀、土器、掘立建物、 井戸、溝	市教委67巻	95	元島名瓦井遺跡	平安：B水田	調査会39巻
71	矢中遺跡群（Ⅹ） (矢中村東C)	古墳：周溝墓 平安：B水田 中世：館跡	市教委82巻	96	鈴ノ宮遺跡	弥生：住居、周溝墓、堰田 古 墳：古墳、住居、周溝墓 平安： 住居 中近世：堀、井戸	市教委4巻
72	矢中村北D、下村北Ⅱ、 洞ノ内遺跡	古墳：溝 奈良平安：住居、B 水田 中近世：溝、井戸	市教委173巻	97	熊野町熱地遺跡	弥生：住居、竪立、周溝墓 古 墳：竪立、遺跡 平安：B水田 中近世：竪立、溝	調査会35巻
73	矢中村西Ⅰ遺跡	平安：B水田	調査会44巻	98	熊野町熱地Ⅱ遺跡	縄文、弥生：住居 古墳：住居、 堀立、古墳 奈良平安：住居、 竪立、遺跡、溝 平安：B水田 中近世：館跡、溝、水田	市教委177巻
74	下中層奈良Ⅱ遺跡 (A跡前1・2、村西2)	古墳：住居、土坑、井戸、溝、 C水田 平安：住居、土坑、溝、 B水田 中世：溝 近世：井戸、 溝	市教委145巻	99	中大畑沖田遺跡	平安：B水田 近世：A島堤域、 溝	調査会81巻

第3表 周辺遺跡一覧表③

No.	遺跡名	主な遺構	文献	No.	遺跡名	主な遺構	文献
100	南大畑東沖・稲荷遺跡	縄文：溝・張土；縄濠墓・古墳；住居・奈良平安；住居・竊立・B水田・溝	市教委148集	125	倉賀野上新堀Ⅰ遺跡	奈良平安・溝・中近世：溝	市教委174集
101	南大畑村南遺跡	平安：住居 中世：堀・井戸	市教委131集	126	倉賀野下新堀遺跡	平安：B水田	市教委234集
102	南大畑村南遺跡2	平安：B水田	市教委323集	127	倉賀野奈良Ⅰ遺跡 (倉賀野上稲荷、倉賀野三坊木)	平安：B水田 中世：堀・井戸	市教委172集
103	南大畑中通遺跡	平安：B水田・溝	市教委189集	128	倉賀野奈良Ⅱ遺跡 (倉賀野上稲荷2、倉賀野三坊木2)	平安：B水田・溝 近世：A水田	市教委172集
104	南大畑原塚遺跡	平安：B水田・溝	国史会80集	129	倉賀野奈良Ⅲ遺跡 (倉賀野上稲荷3)	平安：B水田・溝 中世：堀・竊立 近世：堀	市教委172集
105	城南小学校東弥生遺跡 (新長岡寺越遺跡)	遺構なし	市教委1集	130	倉賀野奈良Ⅳ遺跡 (倉賀野上稲荷4)	平安：住居・溝・土坑	市教委172集
106	新後沼遺跡	古墳：住居・竊立 奈良平安：住居・竊立・井戸 中世：溝	市教委237集	131	倉賀野奈良Ⅴ遺跡 (倉賀野上稲荷5)	平安：住居・溝 近世：溝	市教委172集
107	新後沼遺跡2	古墳(7c)：住居・周溝溝墓 奈良平安：住居	市教委241集	132	倉賀野奈良Ⅵ遺跡 (倉賀野稲荷)	平安：B水田 近現代：溝	市教委164集
108	和田多中遺跡	平安：B水田	市教委93集	133	倉賀野万福寺遺跡	縄文：住居・土坑 古墳：住居・古墳・周溝墓・土坑墓 中近世：竊立・土坑墓・配石遺構・溝	調査会4集
109	双葉町Ⅰ遺跡	古墳：住居・溝 平安：B水田 近世：溝・壁六道溝	調査会48集	134	倉賀野万福寺Ⅱ遺跡	縄文：住居 古墳：住居・古墳・周溝墓・土坑墓 中近世：火葬墓・土坑墓・井戸・溝	調査会25集
110	下之城余屋遺構	平安：水田・溝 中世：竊立	群 歴 文1981 [下之城余屋遺構の調査]	135	倉賀野野之倉遺跡	古墳：古墳・周溝墓・住居	市教委24集
111	下之城村東遺跡	奈良平安：溝 平安：B水田 近世：A地蔵坑	調査会1集	136	倉賀野下天神遺跡	平安：B水田 近世：溝	調査会40集
112	下之城村東遺跡2	平安：B水田・溝	調査会5集	137	倉賀野野北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡	平安：住居・B水田・井戸 中世：溝・井戸 近世：堀・竊立	市教委202集
113	下之城・村東遺跡3	平安：B水田・溝 中近世：溝	市教委252集	138	倉賀野上綱地遺跡	奈良平安：住居・溝 平安以降：溝 中世：井戸・溝 近世：溝・A地蔵坑	市教委326集
114	下之城村西遺跡	中世：溝	市教委127集	139	倉賀野比治師遺跡	古墳：住居	市教委336集
115	下之城村西Ⅱ遺跡	平安：B水田	調査会50集	140	倉賀野中屋前遺跡	古墳～奈良・平安：住居 中世：火葬跡	調査会45集
116	下之城村西Ⅲ遺跡	平安：B水田・溝 中近世：溝	市教委174集	141	上佐野樋越遺跡	平安：B水田 近世：堀	群 歴 文300集
117	下之城村西Ⅳ遺跡	古墳：住居・溝 平安：B水田 中世：堀・竊立 近世：鉄路	市教委181集	142	上佐野船越遺跡	古墳：住居・古墳 平安：住居 中世：井戸	調査会23集
118	下之城村西Ⅴ遺跡	古墳：住居 平安：B水田 中世：溝 近世：溝	市教委184集	143	上佐野船越Ⅱ遺跡	古墳：住居 平安：住居・井戸	市教委121集
119	下之城村西Ⅵ遺跡7	平安：B水田・溝 中近世：溝	市教委313集	144	上佐野船越Ⅲ遺跡	古墳：古墳・住居 平安：住居	調査会22集
120	下之城仲神遺跡	奈良平安：住居 平安：B水田 中近世：溝	市教委192集	145	上佐野船越Ⅳ遺跡4	古墳：古墳・住居 平安：住居	市教委346集
121	下之城仲神Ⅱ遺跡	平安：B水田 近世：溝	市教委195集	146	上佐野舟越Ⅴ遺跡5	古墳：住居 平安：溝	市教委338集
122	下之城仲神Ⅲ遺跡3	古墳～平安：溝 平安：B水田 中近世：溝	市教委307集	147	船越遺跡	古墳：住居・古墳・小石部 平安：住居 中世：井戸・溝	群 歴 文93集
123	下之城仲神Ⅳ遺跡4	古墳：溝 平安：B水田 近世：溝	市教委325集	148	下佐野遺跡Ⅰ地区・寺前地区	縄文：住居・土坑 古墳：住居・古墳・周溝墓・石部 平安：住居 中世：周溝墓・竊立	群 歴 文77集
124	倉賀野西上正六道跡	古墳：住居・竊立・溝 中世：壁穴・溝	市教委268集	149	下佐野遺跡Ⅱ地区	縄文：住居 古墳：住居・周溝墓 平安：住居 中世：井戸 近世：壁穴・溝	群 歴 文1986 [下佐野Ⅱ地区]

第4表 周辺遺跡一覧表④

No.	遺跡名	主な遺構	文献	No.	遺跡名	主な遺構	文献
150	下夜野一木木道跡2	奈良平安:住居・石構遺構	市教委225集	0	光明寺	時期:室町 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
151	下夜野長者屋敷遺跡	古墳:住居 古墳~平安:溝 平安:ピット 中世:火葬遺構	市教委229集	P	村岡屋敷	時期:室町 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
152	越後屋古墳	墳丘:前方後円(100~) 主体: 不明 時期:5c後半	古史 資料編1 原始古代1	Q	筑沢屋敷	時期:不明 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
153	藤崎屋古墳	墳丘:円(12) 主体:粘土部 か 時期:4c後半	古史 資料編1 原始古代1	R	栗原・丸中屋敷	時期:16c 築造:栗原内匠・ 丸中源左衛門	古史 資料編3 中巻1
154	歳玉塚古墳	墳丘:円(44) 主体:横穴式 石室 時期:6c後半	古史 資料編1 原始古代1	S	下村北屋敷	時期:16c 築造:大沢氏・松 本氏	市教委67集
155	渡山古墳	墳丘:前方後円(60m~) 主体: 横穴式石室 時期:6c後半~ 7c初	古史 資料編1 原始古代1	T	江木塚遺構	時期:16c 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
156	長者屋敷天王山古墳	墳丘:円(42) 主体:粘土部 時期:4c末	古史 資料編1 原始古代1	U	上大塚新井屋敷	時期:16c 築造:新井氏(新 井朝部か)	古史 資料編3 中巻1
157	浅間山古墳	墳丘:前方後円(171.5) 主体: 横穴式か 時期:4c末~5c初	古史 資料編1 原始古代1	V	長井屋敷	時期:16c 築造:長井氏	古史 資料編3 中巻1
158	大船巻古墳	墳丘:前方後円(123) 主体: 横穴式か 時期:4c末~5c初	古史 資料編1 原始古代1	W	天田館	時期:室町 築造:不明	市教委48集
159	小船巻古墳	墳丘:前方後円(87.5) 主体: 横穴式か 時期:5c後半	古史 資料編1 原始古代1	X	村北屋敷	時期:室町 築造:不明	市教委61集
160	浪申塚古墳	墳丘:円(6) 主体:粘土部・ 石構 時期:不明	古史 資料編1 原始古代1	Y	大船城	時期:戦国 築造:和田氏	市教委75集
161	大山古墳	墳丘:円(56) 主体:粘土部 時期:4c末~5c初	古史 資料編1 原始古代1	Z	大船館	時期:15c 築造:大船氏	古史 資料編3 中巻1
162	赤白山古墳	墳丘:円(57) 主体:不明 時期:不明	古史 資料編1 原始古代1	a	草ノ越屋敷	時期:14cか 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
163	一本杉古墳	墳丘:円(25) 主体:横穴式 石室 時期:7c中~	古史 資料編1 原始古代1	b	矢島岡城	時期:室町 築造:足利氏か	市教委71集
164	安楽寺古墳	墳丘:円(20) 主体:横穴式 石室 時期:7c末	古史 資料編1 原始古代1	c	矢島反町屋敷	時期:戦国(天正期) 築造: 反町氏	古史 資料編3 中巻1
165	長賀山古墳	墳丘:前方後円(35~) 主体: 横穴式石室 時期:6c後半か	古史 資料編1 原始古代1	d	鈴ノ宮屋敷	時期:不明 築造:不明	市教委4集
A	下中野新井屋敷	時期:16c 築造:新井氏	市教委296集	e	新後園屋敷	時期:16c 築造:新後園氏	古史 資料編3 中巻1
B	反町城	時期:戦国 築造:反町氏	市教委296集	f	和田下之城	時期:永祿五~六(1562~ 1563)頃 築造:和田氏	古史 資料編3 中巻1
C	新瓶の砦	時期:室町 築造:不明	古史 資料編3 中巻1	g	倉賀野新屋敷	時期:室町 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
D	高尾屋敷	時期:戦国 築造:高尾佐渡守 か	古史 資料編3 中巻1	h	永長寺の砦	時期:16c 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
E	下中野夜原屋敷	時期:16c 築造:佐藤氏	古史 資料編3 中巻1	i	雲根寺	時期:戦国か 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
F	下中野福田屋敷	時期:16c 築造:福田氏	古史 資料編3 中巻1	j	倉賀野城	時期:室町 築造:倉賀野氏	古史 資料編3 中巻1
G	興田屋敷	時期:室町か 築造:興田氏	古史 資料編3 中巻1	k	倉賀野家城	時期:16c 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
H	高岡屋敷	時期:戦国 築造:角田氏	市教委116集	l	倉賀野西城	時期:室町 築造:倉賀野氏か	古史 資料編3 中巻1
I	丸茂屋敷	時期:室町 築造:丸茂氏	市教委232集	m	上船倉屋敷	時期:室町 築造:不明	古史 資料編3 中巻1
J	宇名草屋敷遺構	時期:16c 築造:堤氏等	古史 資料編3 中巻1	n	佐野屋敷	時期:室町 築造:不明	郡壇文77集
K	舟人屋敷	時期:天文年間 築造:舟人	古史 資料編3 中巻1	o	魁門屋敷	時期:室町 築造:魁門氏	古史 資料編3 中巻1
L	柴崎西浦屋敷	時期:不明 築造:高井氏か	市教委113集	p	清水屋敷	時期:室町 築造:不明	郡壇文77集
M	高井屋敷	時期:16cか 築造:高井氏	古史 資料編3 中巻1	q	夕日長者屋敷	時期:室町 築造:不明	郡壇文77集
N	柴崎新井屋敷	時期:16c 文明六年(1474) 築造:新井氏(新井孝左衛門)	古史 資料編3 中巻1	r	水部北城	時期:戦国 築造:水部氏か	古史 資料編3 中巻1



第2図 上中居前屋敷遺跡2調査区位置図

第3章 発掘調査の方法

第1節 調査区の設定

調査区の設定は、道路予定範囲のうち未調査部分を対象として行った。1～3区については、家屋の移転が済み調査可能な状態になった時点で随時調査を行った。4区は道路予定地内にかかっていたブロック塀の撤去後に調査を行った。なお西に隣接する既存の道路については、上下水道埋設により既に遺構検出面より下位まで掘削が及んでいるため調査範囲から除外した。5区は道路予定地内の隅切り部分を対象とし、設置されていた看板を撤去した後に調査を行った。

第2節 調査方法・記録方法

表土掘削は全て重機を使用し、遺構確認面まで掘り下げを行った。4区については隣接地に排土を置くことができなかったため、ダンプを使用して排土の運び出しを行った。表土除去後は、人力による遺構確認作業を行い、重複関係を確認した後に新しい遺構から調査を行った。遺構掘削に際しては、土層観察用のベルトを設定しながら覆土掘削を行った。遺物の取上げは原位置での記録化を原則とし、座標値および標高値を付与した後に取上げを行った。遺物出土状況・遺構平面図・土層断面図などの記録図面については、調査担当者および作業員が段階的に作成し、記録化を行った。調査中の写真記録については、一眼レフを用いて35mmのモノクロとカラーリバーサル、補足としてデジタルカメラで調査担当者が撮影した。調査終了後は重機を使用して埋戻し作業を行った。

第4章 発掘調査の記録

第1節 遺跡の概要

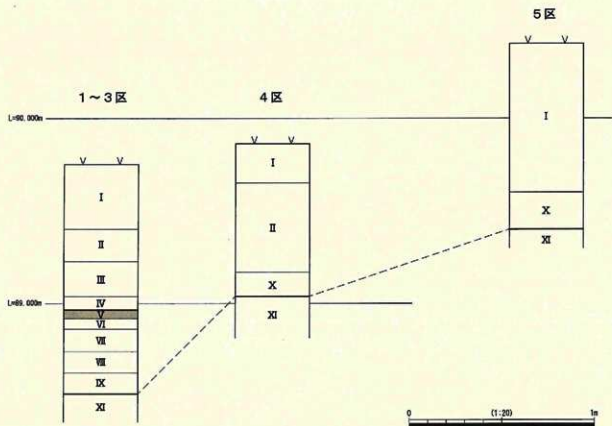
本報告書では、5箇所の発掘調査成果について報告を行う。調査実施順に1～5区を設定しており、平成21年度に1・2区、平成25年度に3区、平成26年度に4・5区の発掘調査を行った。主に1～3区ではB下水田、4区では新井屋敷に関連すると思われる溝、5区では古墳時代前期の溝などが検出された。

第2節 基本層序

本遺跡の基本層序は調査地点によって大きく異なるが、1～3区については土層堆積状況が類似しているため、1～3区・4区・5区の3地点についての基本層序を図示することとした(第3図)。

低地エリアにあたる1～3区では、地表面より80cmほどの深度でAs-B一次堆積層(第V層)が確認され、この上面を遺構確認面とした。この下層には水田土壌である粘質土が堆積しており、表面がより強い黒色を呈する(第VI層)。粘質土層の下にはきめの細かい砂層(第VII層)が形成されており、さらに粘質土層を一層して黄色地山土(第VIII層)が確認された。

1～3区のやや北方にある4区は微高地の縁辺部にあたり、現況では視認しづらいが第IX層の堆積レベルに50cmほどの落差がある。この微高地には大きく削平を受けていると考えられ、As-B一次堆積層は確認できなかった。表土(第I層)およびAs-A軽石混土層(第II層)の下には、As-C軽石粒を若干含む黒色土層(第X層)が残存していたが、本層上面においては遺構確認が困難であったため、その下層にあたる第XI層上面を遺構検出面とした。さらに北方にあたる5区では、4区と同様の土層堆積状況が確認された。遺構検出面も4区と同様に第XI層上面とした。



- | | | |
|------|---------------|---|
| I | 表土 | |
| II | A s - A 混土層 | 褐灰 (Hue10YR 4/1)
しまり・粘性やや弱い。砂質。A 軽石粒ごく少量。 |
| III | 黄色砂質土 | 明黄褐色 (Hue2.5Y 7/6)
しまりやや強く、粘性やや弱い。砂質。黄色粒少量。 |
| IV | 黒褐色砂質土 | 黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまり強く、粘性弱い。砂質。B 軽石粒やや少量。 |
| V | A s - B 一次堆積層 | 灰黄色 (Hue2.5Y 6/2)
しまり・粘性なし。最下に薄い灰層あり。 |
| VI | 黒色粘質土 | 黒色 (Hue10YR 2/1)
しまりやや弱く、粘性強い。粘質。水田土壌。 |
| VII | 灰色粘質土 | 褐灰色 (Hue10YR 6/1)
しまり弱く、粘性強い。シルトを含む粘質。斑点状に黄色化。 |
| VIII | 灰白色砂質土 | 灰白 (Hue10YR 7/1)
しまり・粘性なし。砂質。 |
| IX | 黒褐色粘質土 | 黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまりやや弱く、粘性やや強い。砂混じりの粘質土。 |
| X | 黒色土 | 黒色 (Hue10YR 2/1)
しまりやや強く、粘性やや弱い。C 軽石粒ごく少量。 |
| XI | 黄色地山土 | にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/4)
しまり・粘性やや強い。斑点状に酸化。礫やや少量。 |

第3図 基本土層図

第3節 発掘調査成果

(1) 1～3区の発掘調査成果

1～3区ではいずれもB下水田が確認されており、調査区をまたいで畦畔が複数検出されている。基本的には下中居天神裏遺跡1・2次調査と同様の情報を得ることとなったが、3区では水田面の下より須恵器・土師器片が出土する範囲が確認できたため、3区の調査成果を中心に報告したい。

1号畦畔（第5・6図）

東西方向の畦畔であるが、北に膨らむように弧を描いている。軸方向はN-81°-Wである。検出長7.9m、幅1.65m、高さ7cmである。1区において続きが検出されており、調査区中央に構築された南北方向の畦畔に接続し、東には連続しない。

2号畦畔（第5・6図）

北西-南東方向の畦畔であり、軸方向はN-34°-Wである。検出長9m、幅1.55m、高さ6cmである。2号畦畔の南西側の水田面の方が若干低くなっている。なお、調査区南東部においては、2号畦畔の東側への傾斜が非常に不明瞭となっており、この近辺は水田面に比して若干高くなっているようである。

円形の高まり（第5図）

1号畦畔および2号畦畔によって形成された水田面では、直径約0.9m、高さ約3cmの円形の高まりが3か所確認された。全て断割り調査を行ったが、B下水田面下に高まりが存在する様子はなく、また遺構等も確認できなかった。

水田面下の礫および土器（第5図）

2号畦畔の説明で触れた調査区南東部の高まりにおいて、B下の面でやや大型の礫が表出している箇所が確認された。遺構の掘り込みなどは確認できなかったため、トレンチを入れて調査を行ったところ、灰色粘質土層（第Ⅵ層）中において須恵器片・土師器片の出土が確認された。土師器片は、表出していた礫の直下から逆さの状態出土した。これを受けて土器出土エリア周辺を第Ⅵ層中位あたりまで掘削したが、それ以上の土器の出土は確認できなかった。

(2) 4区の発掘調査成果

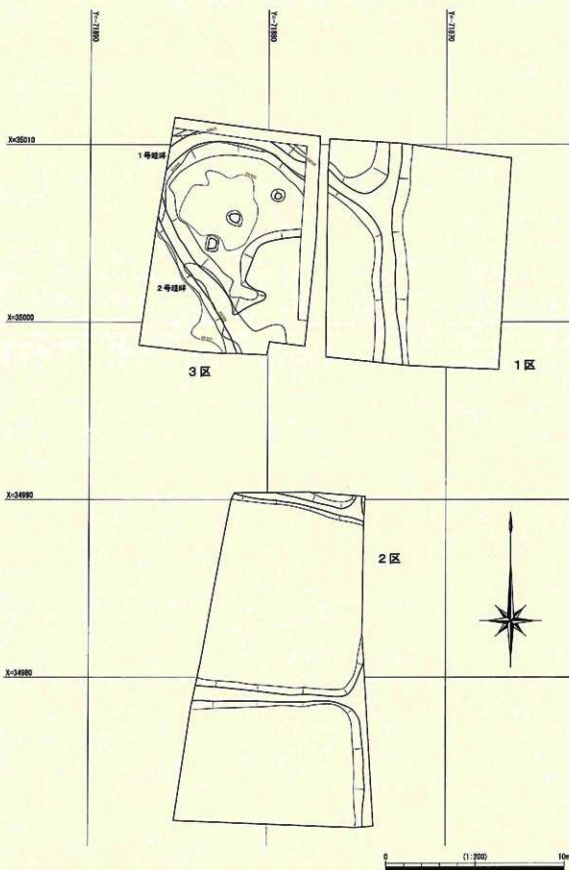
前述の通り、4区では新井屋敷に関連すると思われる中近世の溝・井戸が検出されている。この他にピットも数基検出されており、中には柱痕跡もしくは抜取痕が確認できるものもある（6～8号ピット）。遺物の出土は皆無であるため時期は不明瞭だが、屋敷を構成する構造物に伴う柱穴である可能性も考えておきたい。

1号溝（第8図）

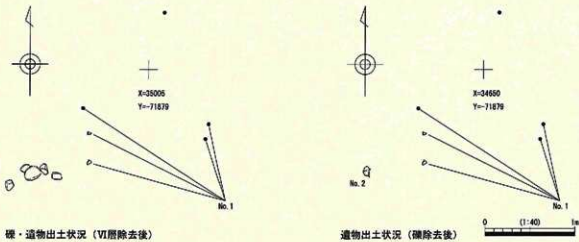
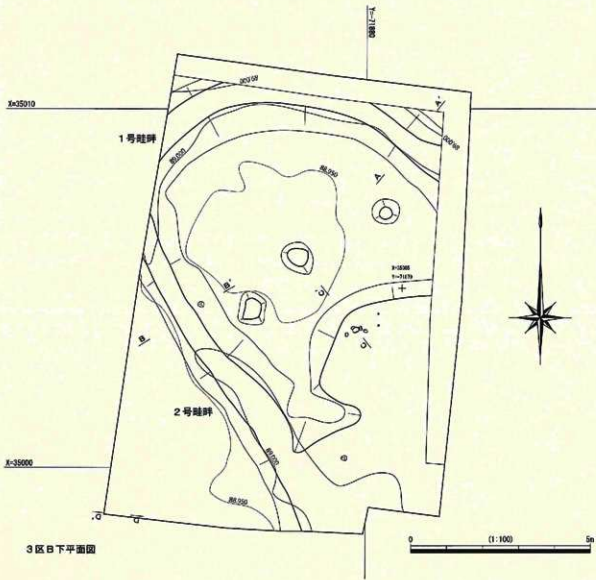
南西-北東方向に開削されており、軸方向はN-77°-Eである。検出長2.85m、上幅0.45m、基底幅0.15m、検出面からの深さ15cmである。覆土はA s-A軽石粒を含む褐灰色粘質土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期は近世以降と考えられる。

2号溝（第8図）

南西-北東方向に開削されており、軸方向はN-78°-Eである。検出長1.8m、上幅0.3m、基底幅0.1m、検出面からの深さ4cmである。1号土坑を切る。覆土はA s-A軽石粒を含む褐灰色粘質土である。出土遺物はなく、覆土の状況から遺構の所属時期は近世以降と考えられる。



第4図 1・2・3区全体図

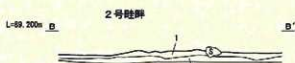


第5図 3区平面図

第4章 発掘調査の記録



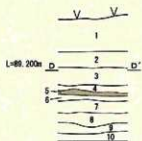
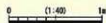
- 1 基本土層のVI層。B下水田面。
- 2 基本土層のVII層。



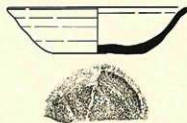
- 1 基本土層のVI層。B下水田面。
- 2 基本土層のVII層。



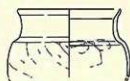
- 1 基本土層のVI層。B下水田面。
- 2 基本土層のVII層。



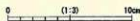
- 1 表土 (I層)
- 2 A s-A 混土層 (II層)
褐灰 (Hue10YR 4/1)
しまり・粘性やや弱い。砂質。A軽石粒ごく少量。
- 3 黄色砂質土 (III層)
明黄褐色 (Hue2.5Y 7/6)
しまりやや強く、粘性やや弱い。砂質。黄色粒少量。
- 4 黒褐色砂質土 (IV層)
黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまり強く、粘性強い。砂質。B軽石粒やや少量。
- 5 A s-B 一次堆積層 (V層)
灰黄色 (Hue2.5Y 6/2)
しまり・粘性なし。最下に薄い灰層あり。
- 6 黒色粘質土 (VI層)
黒色 (Hue10YR 2/1)
しまりやや弱く、粘性強い。粘質。水田土壌。
- 7 灰色粘質土 (VII層)
褐灰色 (Hue10YR 6/1)
しまり弱く、粘性強い。シルトを含む粘質。斑点状に黄色化。
- 8 灰白色砂質土 (VIII層)
灰白 (Hue10YR 7/1)
しまり・粘性なし。砂質。
- 9 黒褐色粘質土 (IX層)
黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまりやや弱く、粘性やや強い。砂混じりの粘質土。
- 10 黄色地山土 (X層)
にぶい黄褐色 (Hue10YR 7/4)
しまり・粘性やや強い。斑点状に酸化。礫やや少量。



1



2



第6図 3区断面図・出土遺物

3号溝 (第8図)

南西-北東方向に開削されており、軸方向はN-70°-Eである。検出長4.7m、上幅1.2m、基底幅0.4m、検出面からの深さ30cmである。覆土は砂粒を含む粘質土である。出土遺物は軟質陶器焙烙・内耳鍋、須恵器埴などの小片である。出土遺物から遺構の所属時期は中近世と考えられる。なお、この3号溝は新井屋敷に関連する遺構と考えられ、下中居天神裏遺跡第2次1区のSD9と同一の遺構である。

1号土坑 (第8図)

平面形は楕円形を呈し、検出長0.7m、検出幅0.2m、検出面からの深さ12cmである。2号溝に切られる。覆土は黒色土ブロックを含む砂粒である。出土遺物は土師器の小片のみである。As-A軽石を覆土を含む2号溝に切られることから遺構の所属時期は近世以前と考えられる。

1号井戸 (第9図)

平面形は円形を呈し、長軸0.98m、短軸0.8m、検出面からの深さ82cmである。2号溝に切られる。覆土は砂粒を多量に含む黒褐色粘質土である。出土遺物はかわらけである。出土遺物から遺構の所属時期は中世以降と考えられる。底面には約20cmの礫が敷点配されており、それぞれの礫上面のレベルがある程度そろってはいたが、全面に礫が敷かれていた明確な痕跡は確認できなかった。

1号ピット (第9図)

平面形は隅丸方形を呈し、長軸0.5m、短軸0.43m、検出面からの深さ23cmである。覆土は砂粒を含む褐色粘質土であり、黄色地山土粒をやや多く含む。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

2号ピット (第9図)

平面形は円形を呈し、長軸0.5m、短軸0.47m、検出面からの深さ17cmである。覆土は褐色土色である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

3号ピット (第9図)

平面形は楕円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.53m、検出面からの深さ9cmである。覆土はシルト混じりの黒褐色粘質土であり、黄色地山土粒を多く含む。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

4号ピット (第9図)

平面形は円形を呈し、長軸0.44m、短軸0.4m、検出面からの深さ14cmである。覆土は黒褐色粘質土であり、黄色地山土ブロックを多く含む。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

5号ピット (第9図)

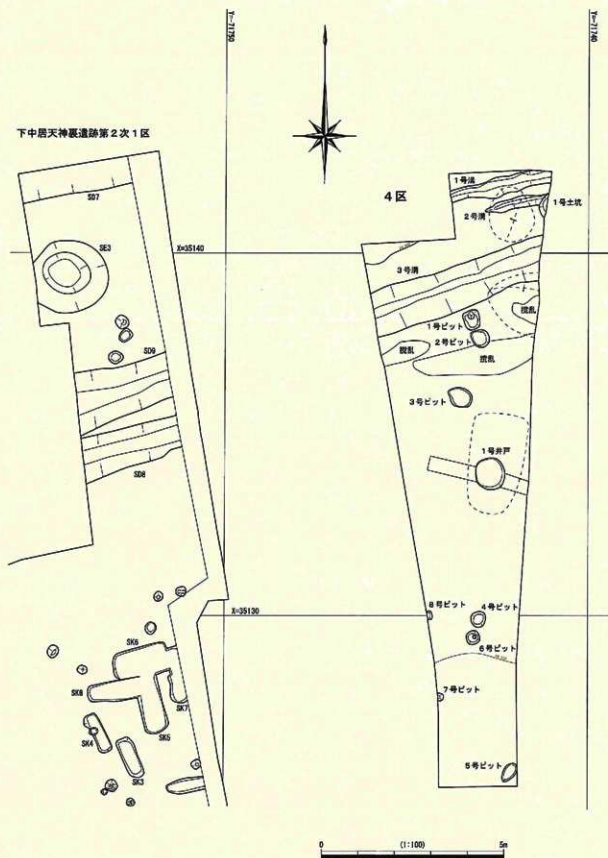
平面形は楕円形を呈し、長軸0.57m、短軸0.33m、検出面からの深さ8cmである。覆土は砂粒を含む褐色粘質土である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

6号ピット (第9図)

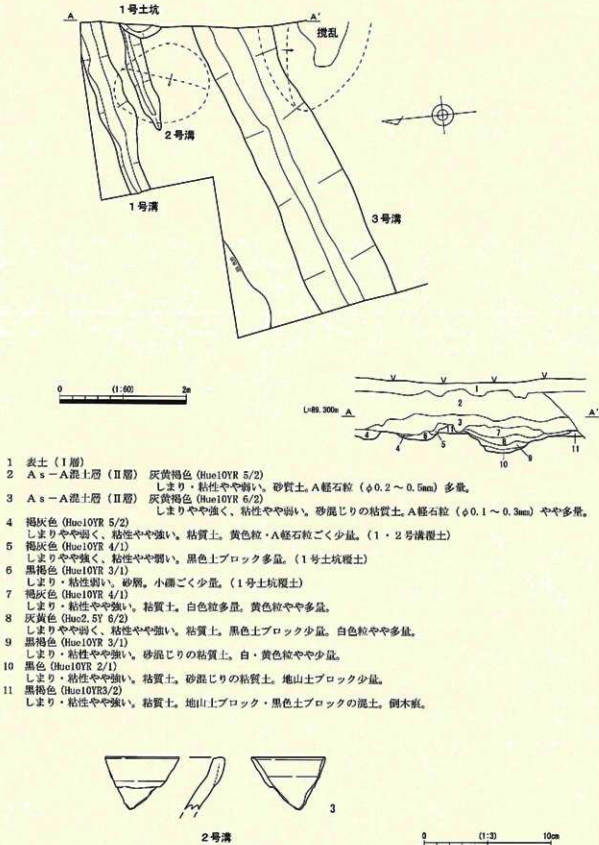
平面形は円形を呈し、直径0.4m、検出面からの深さ35cmである。柱抜取痕が確認でき、該当部分の覆土は砂粒となっており、その周囲に黄色地山土ブロックを多量に含むしりの強い褐色土色が埋填されている。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。7・8号ピットと覆土の状況が類似しており、同一の構造物を構成する柱穴である可能性がある。

7号ピット (第9図)

平面形は円形を呈し、長軸検出長0.15m、短軸0.21m、検出面からの深さ22cmである。調査区壁の観察によると、黒色土層(第X層)より上から掘削されており、As-A混土層(第II層)によって削平されている。黒色土層上面からの深さは42cmである。柱抜取痕が確認でき、該当部分の覆土は砂粒となっており、その周囲に黄色地山土ブロックを多量に含むしりの強い褐色土色が埋填されている。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。6・8号ピットと覆土の状況が類似しており、同



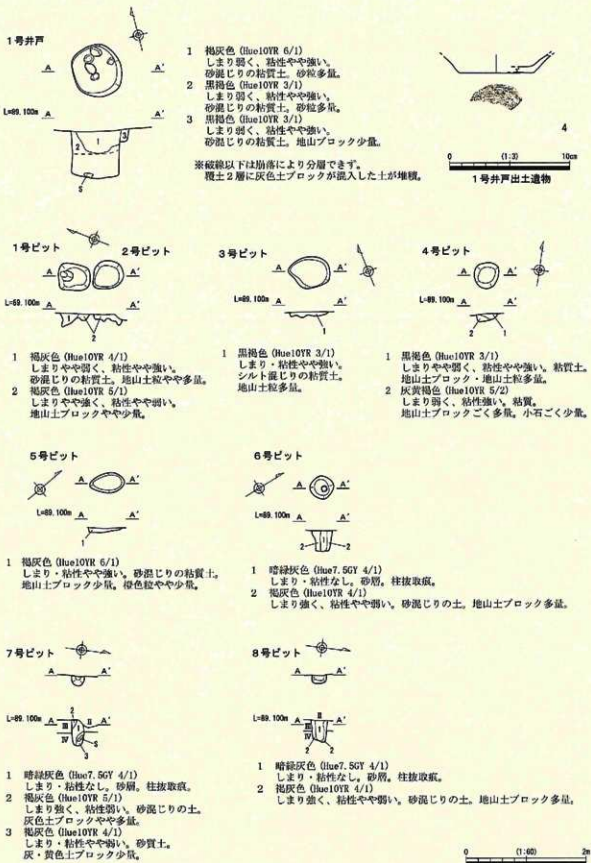
第7図 4区平面図



- 1 表土 (I層)
- 2 A s-A混土層 (II層) 灰黄褐色 (Hue10YR 5/2)
しまり・粘性やや弱い。砂質土。A軽石粒 ($\phi 0.2 \sim 0.5\text{mm}$) 多量。
- 3 A s-A混土層 (II層) 灰黄褐色 (Hue10YR 6/2)
しまりやや強く、粘性やや弱い。砂混じりの粘質土。A軽石粒 ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{mm}$) やや多量。
- 4 褐灰色 (Hue10YR 5/2)
しまりやや弱く、粘性やや強い。粘質土。黄色粒・A軽石粒ごく少量。(1・2号溝覆土)
- 5 褐灰色 (Hue10YR 4/1)
しまりやや強く、粘性やや弱い。黒色土ブロック多量。(1号土坑覆土)
- 6 黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまり・粘性弱い。砂層。小礫ごく少量。(1号土坑覆土)
- 7 褐灰色 (Hue10YR 4/1)
しまり・粘性やや強い。粘質土。白色粒多量。黄色粒やや多量。
- 8 灰黄色 (Hue2.5Y 6/2)
しまりやや弱く、粘性やや強い。粘質土。黒色土ブロック少量。白色粒やや多量。
- 9 黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまり・粘性やや強い。砂混じりの粘質土。白・黄色粒やや少量。
- 10 黒色 (Hue10YR 2/1)
しまり・粘性やや強い。粘質土。砂混じりの粘質土。地山土ブロック少量。
- 11 黒褐色 (Hue10YR 3/2)
しまり・粘性やや強い。粘質土。地山土ブロック・黒色土ブロックの混土。倒木痕。

第8図 4区1～3号溝、1号土坑平面図・断面図・出土遺物

第4章 発掘調査の記録



第9図 4区1号井戸、1～8号ピット平面図・断面図・出土遺物

一の構造物を構成する柱穴である可能性がある。

8号ピット (第9図)

平面形は隅丸方形を呈し、検出長0.13m、幅0.24m、検出面からの深さ20cmである。調査区壁の観察によると、7号ピットと同様に黒色土層(第X層)より上から掘削されており、As-A混土層(第II層)によって削平されている。黒色土層上面からの深さは38cmである。柱抜取痕が確認でき、該当部分の覆土は砂粒となっており、その周囲に黄色地山土ブロックを多量に含むしりの強い褐灰色土が埋填されている。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。6・7号ピットと覆土の状況が類似しており、同一の構造物を構成する柱穴である可能性がある。

(3) 5区の発掘調査成果

5区では、過年度の調査で確認されていた古墳時代前期の溝の続きを検出した。この他に、中近世に所属すると思われる溝が1条確認された。

1号溝 (第10図)

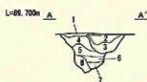
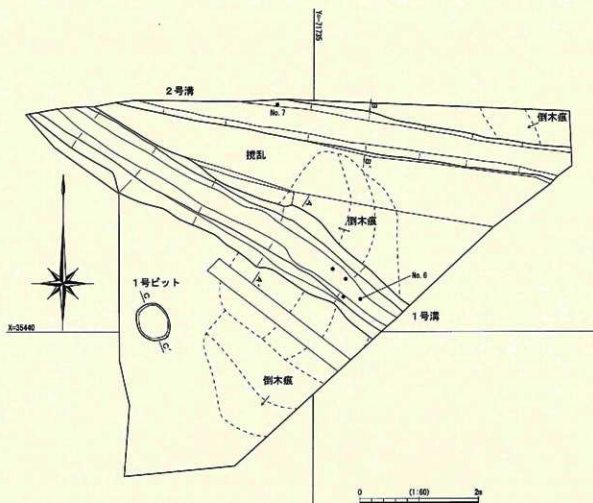
北西-南東方向に開削されており、軸方向はN-57°-Wである。検出長6.8m、上幅1.2m、基底幅0.3m、検出面からの深さ66cmである。覆土は砂粒を含む褐灰色シルト質土、最下層は黄色地山土を多量に含む黒褐色粘質土である。出土遺物は土師器壺・S字口縁壺、縄文土器片である。出土遺物から遺構の所属時期は古墳時代前期と考えられる。この1号溝は過年度調査区で確認された溝の続きにあたり、上中居前屋敷遺跡1区の1号溝と同一の遺構である。土層断面の観察によると、溝がある程度埋没した後に南西側に同方向の溝が切り直されているようであり、溝の中央付近でその痕跡である段差が確認されている。

2号溝 (第10図)

東西方向に開削されており、軸方向はN-80°-Wである。検出長7.5m、上幅0.7m、基底幅0.4m、検出面からの深さ23cmである。覆土は上層が軽石粒(As-AもしくはAs-B)を含む褐灰色シルト質土、下層が褐灰色粘質土である。出土遺物は軟質陶器片口鉢、土師器片である。覆土の状況および出土遺物から、遺構の所属時期は中近世と考えられる。

1号ピット (第10図)

平面形は楕円形を呈し、長軸0.65m、短軸0.55m、検出面からの深さ13cmである。覆土は砂粒を含む黒褐色土である。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。



- 1 褐灰色 (Hue10YR 5/1)
しまりやや強く、粘性弱い。シルト質土。砂粒をブロック状に含む。
- 2 褐灰色 (Hue10YR 6/1)
しまり弱く、粘性やや弱い。砂混じりのシルト質土。砂粒の混入ごく少量。
- 3 褐灰色 (Hue10YR 6/1)
しまりやや強く、粘性やや弱い。砂粒の混入やや多量。地山土ブロックごく少量。
- 4 褐灰色 (Hue10YR 6/1)
しまりやや弱く、粘性やや強い。粘土混じりのシルト質土。斑点状に酸化。
- 5 褐灰色 (Hue10YR 5/1)
しまり・粘性やや強い。シルト混じりの粘質土。地山土ブロックごく少量。
- 6 褐灰色 (Hue10YR 4/1)
しまりやや弱く、粘性強い。砂混じりの粘質土。白色粒やや少量。黄色粒少量。
- 7 黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまり・粘性強い。粘質土。地山土ブロックごく多量。
- 8 褐灰色 (Hue10YR 6/1)
しまりやや強く、粘性強い。粘質土。砂粒・地山土ブロック混入。白色粒やや多量。

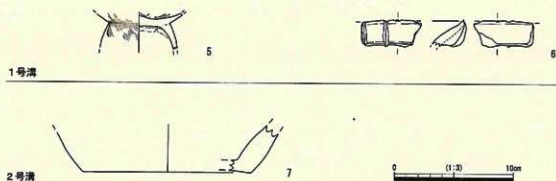


- 1 褐灰色 (Hue10YR 6/1)
しまり・粘性弱い。シルト質土。地山土・軽石粒ごく少量。
- 2 褐灰色 (Hue10YR 4/1)
しまり・粘性やや強い。粘質土。地山土粒少量。白色粒やや少量。
- 3 褐灰色 (Hue10YR 4/1)
しまりやや弱く、粘性やや強い。地山土ブロックやや多量。



- 1 黒褐色 (Hue10YR 3/1)
しまりやや強く、粘性やや弱い。
砂粒の混入あり。地山土ブロックやや多量。

第10図 5区平面図・断面図



第11図 5区出土遺物

第5表 出土遺物観察表

番号	図版	出土地	器種	法量 (cm)			形状・産文		色調	粘土・石材	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
1	第6図 PL.4	3区 W層下	須志器 坏	14.5	7.0	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色 HueN8/	白色粒、角閃石、 小礫	1/2	摩耗面著 陶粒遺切種しか
2	第6図 PL.4	3区 W層下	土師器 甕	8.4	-	(5.5)	口縁ヨコナデ、 胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ、 胴部ヘラナデ・エビ オサエ	褐色 Hue7.5YR6/6	白・褐色粒	1/4	摩耗面著
3	第8図 PL.4	4区 2号溝	軟質陶器 内耳瓶	-	-	(4.1)	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 Hue10YR3/1	石英、白色粒	破片	
4	第9図 PL.4	4区 1号井内	土師器 かわらけ	-	(6.0)	(2.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 Hue7.5YR6/4	白・黒色粒、小礫	1/3	
5	第11図 PL.4	5区 1号溝	土師器 S字甕	-	-	(2.8)	ナナメハケ	胴部ヘラナデ、 脚部エビオサエ	浅黄褐色 Hue10YR8/4	白・褐色粒、小礫	3/4	
6	第11図 PL.4	5区 1号溝	土師器 甕	-	-	(2.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色 Hue10Y7R8/6	白・灰・褐色粒	破片	摩耗面著 縦方向の浮文×2
7	第11図 PL.4	5区 2号溝	陶器 鉢	-	14.0	(4.0)	ヘラナデ	ナデ	灰色 HueM/	白・黒色粒	1/6	

第5章 まとめ

今回の調査は高前幹線事業のうち、高崎競馬場通りと国道17号線を結ぶ区間における最後の発掘調査であった。検出された主な遺構は古墳時代の溝1条、B下水田、中近世の溝5条・井戸1基である。平成19年度から継続して行われた発掘調査によって蓄積された成果は、当該地域における古墳時代から近世にかけての土地利用状況を明らかにする重要な資料となった。そこで本章では、該当区間全体の発掘調査成果を概観し、若干の考察をもってまとめとしたい。

第1節 遺跡の全容

本事業による発掘調査は、幅約28m、南北長約500mにおよぶ範囲が対象となった。4章までに報告したように、調査対象地は北西—南東方向の微高地南端部から南側の低地に移行するエリアとなっており、地形の変化とともに土地利用状況も変化している様子が明確に見てとれる。調査地北部の微高地上では古墳時代の遺構群および中世の寺院関連遺構群、微高地縁辺部となる調査地中央部では中近世の城館跡である下中居新井屋敷関連の遺構群、調査地南部の低地域にはB下水田が展開している（第12図参照）。

第2節 古墳時代の遺構群

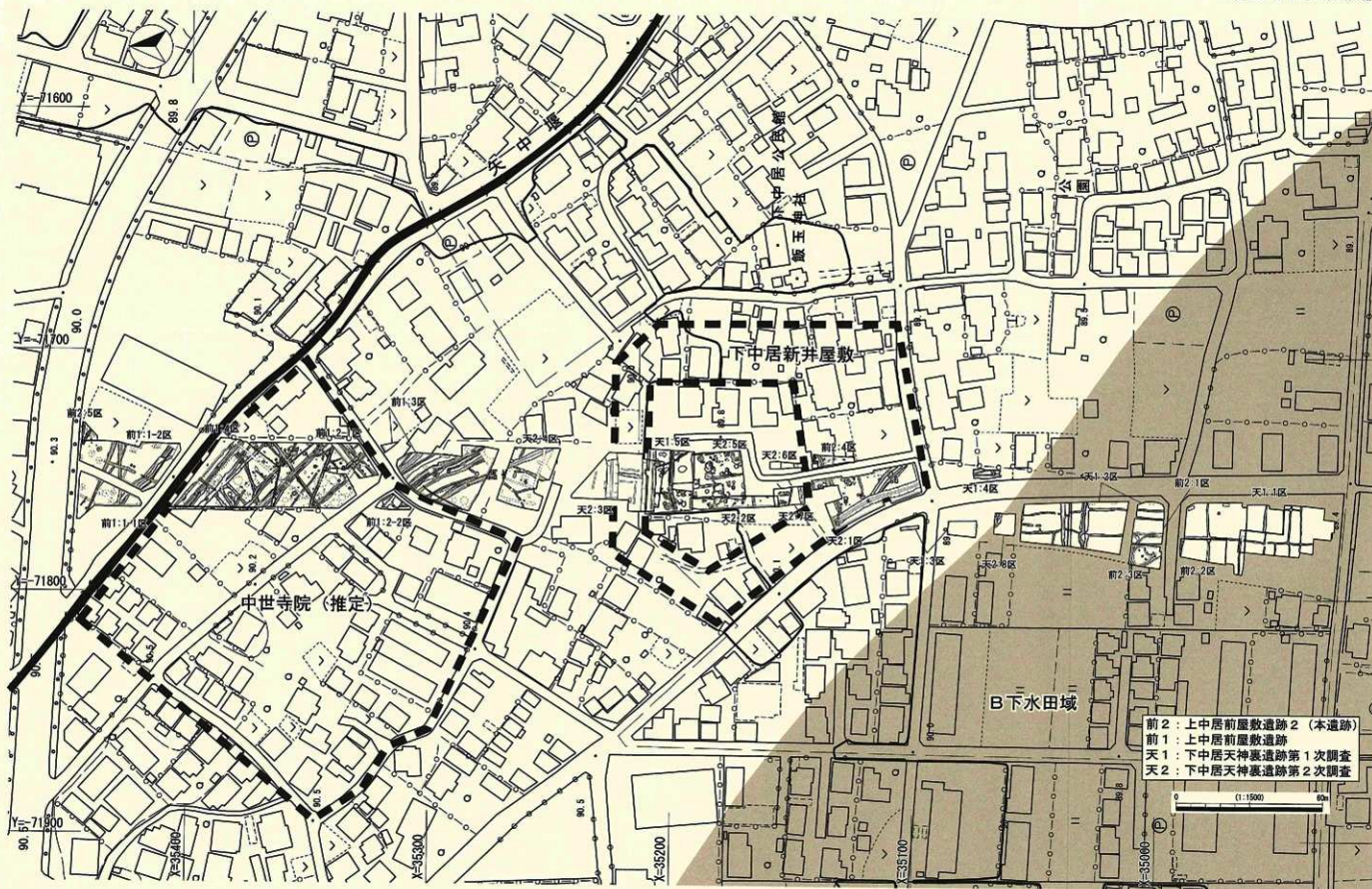
高前幹線関連遺跡において、古墳時代に該当する遺構はほとんどが溝であり、特に北部に集中して見られる。いずれも北西から南東に向かって流下しており、微高地の傾斜方向と合致する。所属時期は前期が最も古く、少数ながら中期～後期のももみられ、中にはHrFA由来の洪水層によって埋没したと思われる例もある。これらの溝群の分布状況を詳細に見ると、最北端にあたる上中居前屋敷遺跡1-1・2区と、約100m南方の上中居前屋敷遺跡3区に偏在する傾向がみられる。両調査区の間は中世寺院エリアに該当し、古墳時代と思われる溝も確認できるものの北西—南東方向の溝群とは軸方向が異なり、密度も非常に希薄である。基本土層を比較してみると、古墳時代の溝群が集中する2箇所に比べてその中間にあたる中世寺院エリアの黄色地山土の検出レベルがやや高くなっている。おそらく微高地上でもより高位となる部分が矢中堰南側あたりに存在し、その面は北西—南東方向にのびていたと考えられる。古墳時代の溝群は、その南北にあたるやや低い部分に開削されていたことがうかがえる（第13図参照）。

本遺跡群においては、堅穴住居跡など集落関連の遺構は検出されなかったが、留意すべき点として北端部のみ黒色土中に古墳時代前期の土器（一部縄文中期の土器）が多数包含されているということが挙げられる。特に上中居前屋敷遺跡1-1区の黒色土中からは完形の壺などが複数出土している。このように黒色土中に古墳時代の土器類が包含されるのは、上中居前屋敷遺跡1-1区から4区の11号溝周辺までであり、11号溝以南の黒色土中からは遺物の出土はほとんど確認できない。遺構の認定は不可能であったものの、当該エリアが古墳時代前期頃から活動領域であったことは想定してよいであろう。

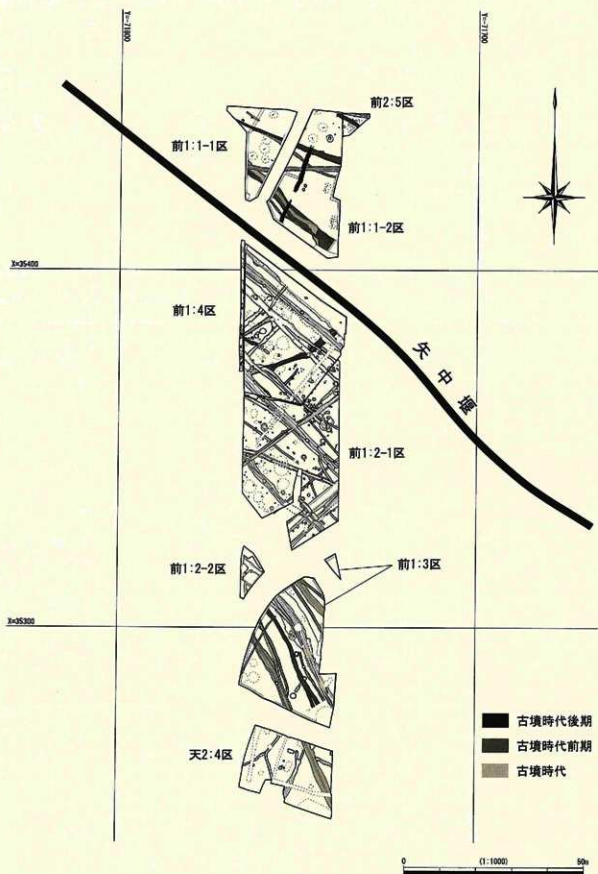
第3節 B下水田と条里制地割

続く奈良・平安時代に関しては、本遺跡群中からは集落の痕跡が見出せない。しかしながら下中居天神裏遺跡を中心とする低地域では、B下水田が広域にわたって検出されており、下中居天神裏遺跡2次8区以南は全て水田域である。

特筆されるのは水路を有する大畦畔の存在であり、先の同2次8区と同1次2区において確認されている。2次8区で検出された大畦畔は北西—南東方向を軸としており、畦畔の北東側に水路が併設されている。地理条件と遺構分布状況を考えて、おそらくこの畦畔が微高地南方に広がるB下水田の北限を示すものと思われる。1次8区で検出された大畦畔は東西方向を軸としており、2条の畦畔が並走し、その間が水路状となっている。この大畦畔は、後に詳述するが条里制地割に則って築造されたものである。



第12図 高前幹線関連遺跡全体図



第13図 古墳時代の遺構分布状況

本遺跡群の南方に分布する遺跡の状況を見てみると、下之城遺跡群や下之城条里遺構、下中居条里Ⅲ遺跡においてもB下水田の展開が認められ、いずれの遺跡においても水路が併設された大畦畔が検出されている。特に下中居条里Ⅲ遺跡では、東西・南北方向を主軸とした大畦畔及び水路が築造された様子が顕著に見て取れる(第14図参照)。これらの大畦畔を基準として、1町(約109m)を基調としたグリッドを遺構分布図上に配すると、先述した下中居天神裏2次8区の大畦畔がその東西ラインとほぼ一致することがわかる。

第14図の範囲からは除外されているが、B下水田域はさらに南方にも展開しており、下之城村前遺跡(3・7次)や下之城仲沖遺跡(3・4次)などでも確認されており、同様に水路を伴う大畦畔が検出されている。先ほど想定した条里制地割のメッシュをこれらのエリアまで拡張したところ、若干のずれは生じるものの水路を伴う大畦畔のほとんどが条里制地割のラインとほぼ一致することが確認された(大野2013下之城村前遺跡7参照)。これらのことから、少なくとも平安時代末頃には、計画的かつ大規模に条里制が施行されていたことがうかがえる。

第4節 中世の寺院関連遺構

高前幹線関連遺跡の中でも、中世の寺院に関連すると思われる溝・井戸などが発見されたことは重要な成果である。これらの遺構分布エリアは上中居前屋敷遺跡2・4区に限定されており、矢中堰の南に接するように築造されていたと考えられる(第15図参照)。

遺構の検出状況を見ると、矢中堰同様に北西—南東方向を主軸とした溝(堀)が複数開削され、その範囲内に井戸や礎石を有する柱穴群、土坑墓、ピット群などが分布している。溝群のうち最北東に位置する44号溝は、幅5m以上の大型の溝であり、寺院城北東端の堀あるいは現矢中堰の前身にあたる水路であったと考えられる。これよりやや規模は劣るが、同方向の溝が複数条認められ、前述の44号溝の隣には薬研掘りの溝が開削されている。しかしながらこれらに直交する軸方向の溝はいずれも浅く、幅も狭いものである。

井戸も複数確認されており、中には溝の埋没後に掘り直されたものもある。これらのうち2基において、覆土上層に瓦が一括廃棄された状況が確認されており、井戸の廃絶後ある程度埋没した段階で瓦を廃棄したと思われる。

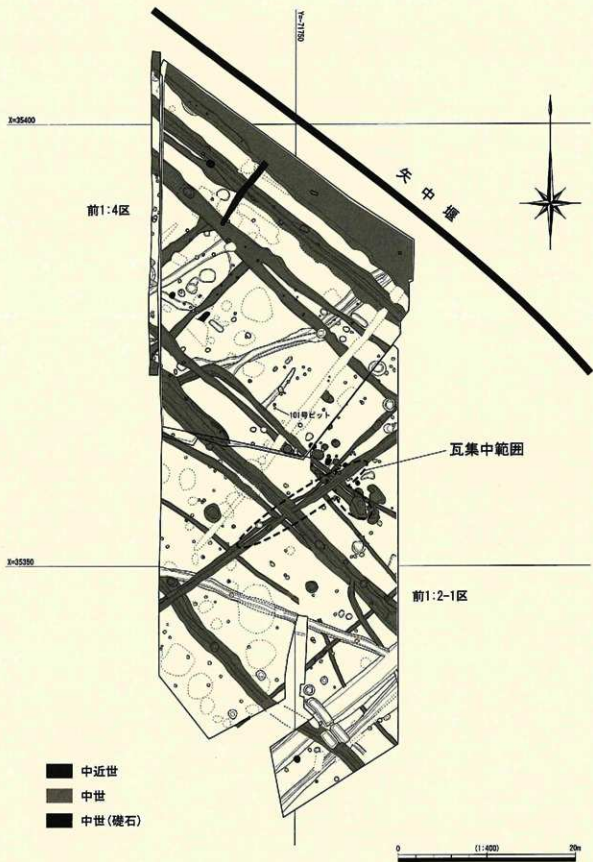
礎石を有する柱穴群は上中居前屋敷遺跡4区南東部から2-1区北東部にかけて確認されている。いずれも底面に根石と思われる20cm前後の重円礫が複数敷かれている状況であった。また、4区では検出レベルで扁平礫が検出されており(101号ピット)、一連の遺構の名残である可能性がある。これらの礎石を有する柱穴の並びからは建物を想定することはできなかったが、14・15号溝に沿うように展開しているようであり、先述の扁平礫もこの並びの延長上に位置している。

土坑墓とおもわれる遺構は4区北西部に点在しており、いずれも骨・歯の出土は認められないが、銅銭が複数枚供えられていた。特に44・45号土坑では長辺の中央付近に3枚ずつ、計6枚の銅銭が配されるという出土状況が目目される。この他に44号溝の北西部底面において五輪塔や瓦片がまとめて出土しており、溝の南側に配されたものが崩落した痕跡と考えられる。

これらの遺構群から出土した遺物は、主に瓦・陶磁器・内耳土器・銅銭などであり、龍泉窯系の青磁碗など稀少性の高いものも見られる。おおむね14世紀後半～15世紀を中心とした時期が考えられる。特に瓦の出土が目目引き、溝や井戸などの覆土中に多数混入している。分布状況を見ると、20号土坑および13号溝からの出土が特に多い傾向がある。このエリアは先述の礎石を有する柱穴が多数分布する場所でもあり、この付近に礎石を有する瓦葺きの構造物が存在した可能性も想定しておきたい。銅銭については、永楽通宝・開元通宝・元祐通宝などがみられ、特に土坑墓出土のものについては永楽通宝の比率がやや高い。北関東では中世後期に永楽通宝などの明銭が六道銭の組成に加わるとされており、土坑墓の時期は15～



第14図 B下田および条里制地割



第15図 中世寺院関連の遺構

16世紀頃と推定される（手島2014）。

現在のところ、北東の大堀溝以外に寺院を囲むと思われる堀は確認されていない。そのため寺院域の特定は困難であるが、遺構の分布状況及び現況の地割をもとに第12図中に寺院推定域を仮定している。

第5節 中近世の屋敷跡（下中居新井屋敷）

本遺跡群の南方にあたる微高地縁辺部、主に下中居天神裏遺跡において、中近世の屋敷跡である下中居新井屋敷の遺構群が確認された。下中居新井屋敷は、16世紀頃に新井氏によって築造された開郭式の屋敷であり、和田氏騎馬衆の一人である新井大学が居住していたと考えられている。本格・外郭から成り、いずれも平面形は不整形な五角形を呈するが、これは地形の制約によるものと考えられる（高崎市1996）。

本遺跡群において検出された屋敷関連遺構と山崎一氏によって製作された絵図から復元した堀のラインを照らし合わせると、おおむね同位置に大型の堀が検出されている（第16図参照）。天神裏2次1・3区において外郭を囲う堀が、天神裏1次5区および2次6・7区において内郭を囲う堀が確認されている。屋敷内には、これらの堀の他に、ほぼ同時期と考えられる東西・南北方向の溝や井戸、ピット群などが多数分布している。遺構群からの遺物の出土は極めて少ないが、近世を中心とした陶磁器類が出土しており、16世紀頃に築造された後も近世まで使用され、堀の一部は現代に至るまで残存していたと考えられる。

第6節 今後の課題

前節までの高前幹線関連遺跡の調査成果をまとめ、土地利用状況を通時的に見ていく。まず古墳時代前期頃に本格的な活動を開始し、調査区北部の微高地エリアにおいて水路の開削を行っている。古墳時代中期・後期の溝も確認されているが数は少なく、活動拠点からは外れると思われる、奈良時代に該当する遺構は確認されていない。空白期を経て平安時代末頃になると、調査地南部の低地エリアに条里制地割に則った広域にわたる水田経営が行われる。中世になると、14世紀後半～15世紀頃に欠中堰南側に寺院が、16世紀頃に微高地縁辺部に下中居新井屋敷が築造される。中世寺院に関しては、中世あるいは近世のうちに廃絶してしまった可能性が高いが、新井屋敷に関しては現代に至るまで堀の残存が確認されている。

以上のように、本遺跡群の発掘調査成果によって、地理的条件に応じた土地利用の状況、そして土地利用状況の変遷を確認することができた。しかしながら次のように疑問点・問題点も残されている。

- ・古墳時代中期から平安時代にかけての空白期の存在
- ・古墳時代の水路、平安時代の水田に対応する集落の所在
- ・中世寺院の構造および範囲が不確定

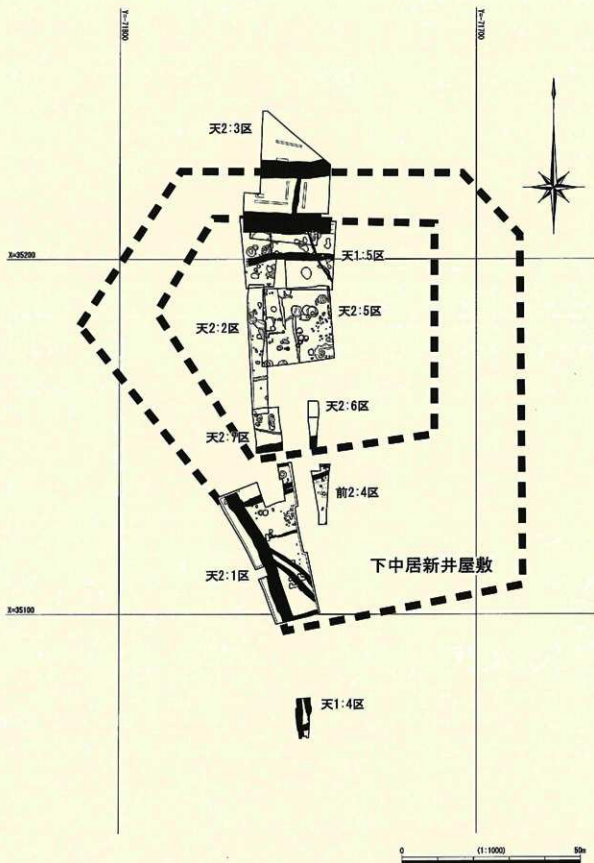
いずれの問題についても、本遺跡の周辺にどのように遺構が展開するのかを注視すべきであり、今後の課題としたい。

〈参考文献〉

黒田晃 2012 「下中居天神裏遺跡 第1・2次調査」高崎市文化財調査報告書第296集 高崎市教育委員会

高崎市 1996 「新編高崎市史」資料編3 中世I

手島美実子 2014 「上中居前屋敷遺跡」高崎市文化財調査報告書第327集 高崎市教育委員会



第 16 図 下中居新井屋敷関連の遺構



1区畦畔検出状況(北→)



1区畦畔検出状況(東→)



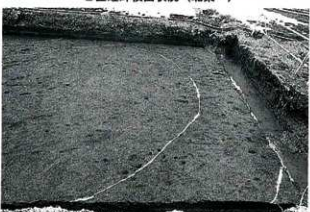
2区畦畔検出状況(南→)



2区畦畔検出状況(北東→)



3区B下水田全景(北東→)



3区1号畦畔検出状況(東→)



3区2号畦畔検出状況(南東→)



3区VI層下礎・遺物出土状況(南東→)



3区障下の遺物出土状況(南→)



3区基本土層堆積状況(北→)



4区完掘状況全景(北→)



3区1・2号溝完掘状況(東→)



3区1・2号溝、1号土坑完掘状況(西→)



4区3号溝完掘状況(西→)



4区1号井戸確検出状況(南→)



4区1号井戸完掘状況(南→)



5区完掘状況全景(東→)



5区完掘状況全景(西→)



5区1号溝完掘状況(南東→)

PL-4



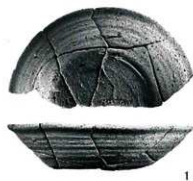
1号溝土層堆積状況(北西→)



2号溝完掘状況(東→)



1号ピット完掘状況(南西→)



1



2



3



4



5



6



7

出土遺物

発掘調査報告書抄録

ふりがな	かみなかいまやしきいせき2							
書名	上中居前屋敷遺跡2							
副書名	高前幹線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第345集							
編著者名	大野義人							
編集機関	高崎市教育委員会							
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地の1							
発行年月日	平成27(2015)年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所在地	所在地	市町村	遺跡番号					
かみなかいまやしきいせき2 上中居前屋敷 遺跡2	かみなかいまやしきいせき2 高崎市上中居町 字前屋敷、下中居 町字天神裏・村西	10202	447	36°19'00	139°02'04	20100125～ 20100212	246㎡	道路集積
			563			20140225～ 20140303	115㎡	
			595			20140428～ 20140523	267㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中居前屋敷 遺跡2	集落 生産	古墳	溝	土師器	
		平安	B下水田	須恵器、土師器	
		中世	井戸、溝	軟質陶器、かわらけ	
		近世	溝	陶器	

高崎市文化財調査報告書第345集

上中居前屋敷遺跡 2

—高前幹線事業に伴う発掘調査—

印刷日 平成27年 3月27日

発行日 平成27年 3月31日

編 集 高崎市教育委員会 文化財保護課埋蔵文化財係

発 行 高崎市教育委員会

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地 1

電話 027(321)1111

印 刷 上武印刷株式会社